

保育・教育の場から解放運動の拠点づくりへ

「ダリット子どもデイケアセンター・プロジェクト」のこれまでとこれから

IMADR は2004 年夏以来、インド南部のタミルナドゥ州で活動するパートナー団体、農村教育開発協会 (SRED) とともに「ダリット子どもデイケアセンター」設置に取り組んできました。その後、多くの皆さまからの暖かいご支援をいただき、これまでに6つの村でセンターを始動させることができました。センターにかかわる人びとに少しずつ表れた変化やセンター運営の継続など今後の課題について報告します (編集部)。

ダリットとその子どもたちの置かれた状況

ダリットは「不可触」の「穢れた」ものとして、公の場であらさまな差別をされたり、居住地が隔離されたりしている。その結果、教育へのアクセスを奪われ、劣悪な生活環境を強いられる。抑圧に立ち向かうと、警察や上位カーストによる殺害・暴力・レイプを含む「制裁」を受ける。農村地域のダリットは土地をもたず、債務労働者として働く。こうした状況のもとで、児童労働への従事や、学校での差別などが原因となり、中途退学するダリットの子どもたちが非常に多い。



子どもたちの世話と教育を担う20歳のサウドゥリヤ。自分の子どもとともにセンターに通う(ムルウォイ村)。

輪になって歌い、九九などを復唱する子どもたち(カラル村)。



差別をはね返し立ち上がる「場」づくりを目指すプロジェクト

このプロジェクトは、厳しい差別や抑圧を受けるダリット⁽¹⁾やイルラ先住民族、また貧困や差別のために学校に行けない子どもたちを対象としたセンターを、タミルナドゥ州内17の村に設置することを目指している。その第1の目的は、子どもたちに安心と自信を与え、基礎的な学習の場を確保するとともに、差別をはね返し立ち上がる力をはぐくむことだ。センターでの子どものケアは、地域の若手女性リーダーが担う。村の住民もセンターの維持・運営に携わる。設置されたセンターが子どもの教育・保育施設としてだけでなく、ダリットの子どもと女性が主役となるダリット解放運動の拠点としても機能するコミュニティセンターに発展していくことを期待している。

センターの設置候補地とされた17の村は、貧困や子どもの不登校、児童労働、また、当事者運動の組織化の状況など、さまざまな要素を総合的に判断して決定された。1つのセンターには、1～15歳までの子どもたち25人前後が通う。

被差別者の「気づき」は差別撤廃運動の第1歩

SRED はこれまで、当事者運動が未組織の村に何度も足を運び、村人たちが被った差別

について話を聞き、ともに抗議行動を起こしてきた。しかし、当事者が差別撤廃運動に目覚めることはそう簡単ではない。なぜなら、3000年以上にわたり歴史的に社会から見放されてきた人びとは、自分

に降りかかる差別や暴力、搾取を「運命」として受け入れることを強いられてきたからだ。もし不当だと声をあげたとしても、上位カーストによる「制裁」を受け、自分や家族の命が危険にさらされる現実が目の前にある。

「女性や子どもたちが、泣き寝入りする運命を引き受けてはいけないことに『気づく』ことが大切」。SRED の代表であるブルナド・ファティマさん (IMADR 理事) はこう語る。「運命」という厚い壁を打ち破って立ち上がるためには、村人たちが自身の状況について語り合い、差別に「気づく」場が必要だ。

プロジェクトのこれまで——人びとの変化

支援の呼びかけを始めて以来、多くの皆さまから寄付や励ましの声が届いた。この場を借りて感謝申しあげたい。その中で、下記の団体は特定の村のセンター設置 (建設) ・運営費の支援を下さり、その結果、6つの村でセンターを開始することができた。

- ・草の根市民基金・ぐらん「2004・2005年度アジア草の根助成」：カラル村・ムルウォイ村 (設置と2年間の運営、04年6月始動)
- ・デイケアセンター設立支援委員会 (人権センターながの他8団体)：アナンダプラム村 (建設、05年9月始動)
- ・第56回総和会東北大会青森大会記念事業：パラウォイ村・カヴェリラジャプラム村 (設置・運営、06年1月始動)
- ・大阪同和・人権問題企業連絡会：ムトゥール村 (建設、07年3月始動)、ティルワランカドゥ村 (建設、準備中)
- ・浄土宗平和協会、連合「愛のカンパ」：上記7村 (1軒のみ設置準備中) のセンターの設置/運営

センターがない時は、仕事で目を離れた際に子どもがけがをしたり、いなくなったりするなど、命にかかわる事故も多々起きてきた。

しかし、子どもを安全な場所にあげ、仕事
が済んだら迎えに行く——という繰り返
しの中で、親たちはセンターを信頼し、意
欲的に通う子どもの将来に希望を見出すよ
うになってきた。そして村人も、協力的な
姿勢を見せるようになった。こうして、
村の人びとが「自分たちのセンター」とい
う意識を持つようになり、自立的な運
営継続のための話し合いも始まりつつあ
る。以下、2つの村での活動経過を紹介す
る。

カヴェリラジャブラム村

ダリットやイルラ先住民族の子どもたち約
20人がセンターに通っている。身の回りの
整理や振る舞いを身につけ、自信をもつて
学校に通えるよう就学前の準備をしている。
先生は、地元のダリット女性が担い、子
どもたちの世話・教育にかかわれる喜びを
語っている。親は、仕事に子どもを安全な
ところに預けられることに安心感を抱くと
ともに、子どもたちの変化に希望を見出
している。資金運営については、先生が親
に毎月5ルピー(約15円)の積み立てを呼
びかけてはいるものの、現実的には困難な
状況がある。

センターでは縫製訓練も行なわれ、中退
した少女を含む40歳までの女性15人が
通っている。マタマ⁽²⁾解放運動の拠点も同
敷地内にあり、これらの会合にも活用され
ている。

ムトゥール村

この村にはダリットと他カーストが混住
しており、ダリットは、公共の井戸や学校
へのアクセスが制限されている。ダリット
への暴力も頻発しており、2005年7月
には、ダリット青年殺害事件がおきた。
運動が未組織だった村人たちは、SRED
などから法律支援を受け、裁判で闘って
いる。

センターは、2007年3月の開所式を
経て始動した。村のダリットの人びとは、
自分たちのコミュニティにおけるデイケア
センターの存在が、精神的支えになって
いると話す。約20人の子どもたちが安
全な環境のもとで適切な教育を受けられ
るようにし、職業訓練や図書館の設置
など、若い女性たちの要望に応えるた
めにも、村人たちは今後の計画につ
いて話し合っている。

直面する課題——運動を広げるために

現在直面している最も大きな課題は、始動

したセンターの運営継続である。年間
運営費は、センター維持費(賃料など)
や教師の給料、学習教材・昼食代など
を含めてセンター当たり約40万円か
かる。村人の中で資金作りなどが協
議されつつあるが、多くのダリットが
債務労働や日雇労働という環境で、積
立は事実上困難であり、自立的な運
営手法を確保するためには時間がか
かると、SREDは認識している。セン
ターを存続させるための資金確保と、
村人が自立して運営できるよう経済
的な安定を確保することが今後の課
題である。

多くのダリットが債務労働や日雇労働
という環境で、積立は事実上困難であ
り、自立的な運営手法を確保するため
には時間がかかると、SREDは認識し
ている。センターを存続させるための
資金確保と、村人が自立して運営で
きるよう経済的な安定を確保するこ
とが今後の課題である。

2つめの課題は、センターがダリット
解放運動の拠点となることも目指す
という方向性を、村人たちと共有す
ることだ。そのためには村人同士が
現地の活動家とともに、センターを
どう活用するか、またどのように維
持管理できるかを話し合う場をつ
くることが大切だ。

最後に、1つでも多くの村にセン
ターを設置することである(セン
ター1軒の立ち上げには約80万円
かかる)⁽³⁾。

「支援」から「連帯」へ

デイケアセンターを保育・教育の場
として始め、女性が暴力から逃れる
ための避難所やダリット解放運動
の拠点として発展させ、未組織の
村人たちが社会の構造的矛盾に目
覚め立ち上がるきっかけをつくる
——SREDは、部落解放運動との
交流を通じて保育所や解放セン
ター/隣保館の設置運動をイメージ
しつつ、このプロジェクトを開始
した。部落解放運動をはじめと
する国内外の運動体の持つ類似
の経験をこの活動に活かすことが
できれば、それは単なる「支援」
ではなく、国境を越えた「連帯」
につながるはずだ。

差別を生み出し温存する社会の
構造に対抗する人と人とのつなが
りが、国境を越えて築かれつつあ
る。このつながりをさらに発展さ
せるべく、さらなるご協力をお願い
したい。

(まとめ: IMADR事務局)



センターで縫製訓練を受ける女性
たち。縫製会社で職を得たり、
市場で売ったりし始めている(カ
ヴェリラジャブラム村)。

- (1) カースト制度下で「不可触
民」として差別されてきた
人びと。
- (2) ヒンドゥー教の宗教慣習に
もとづく性奴隷・性暴力被
害者(本誌10ページ参照)。
- (3) 津波復興需要などにより資
材価格が高騰し、プロジェ
クト開始当初より設置・建
設費が高くなっている。

センターの設置・運営のための
寄付にご協力下さい。

個人:1口 3,000円

団体:1口 10,000円

* 1口以下の金額のカンパも
歓迎です。

◆郵便振替の場合:

口座:00130-8-357095

加入者名:反差別国際運動
(IMADR)

* 記入欄に「ダリット子ども
デイケアセンター支援」とご
記入下さい。

◆銀行振り込みをご希望の方
この活動にご関心のある方
はIMADR事務局(Tel:03-3586-7447/
電子メール: imadris@imadr.org)ま
でご連絡下さい。